

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 482 号	氏名	新川哲子
学位審査委員	主査	工藤 崇	
	副査	青柳 潔	
	副査	川上 純	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、唾液分泌量の指標としての口腔内水分量の客観的測定値と主観的口腔機能状態、血液学的所見の関係を明らかにし、唾液分泌量に関連する因子を同定することを目的としたものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2008年に長与町で定期健康診断を行った502名の64歳以上の高齢者を対象に、問診による口腔機能評価（咀嚼能力・嚥下能力・口腔内乾燥）、血液検査、身体測定、および口腔水分計ムーカスを利用した客観的口腔内水分量測定を行い、これらの指標にt検定、ロジスティック解析などの統計学的な解析を行ったものであり、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、主観的口腔内機能のうち、咀嚼能力に客観的口腔内水分量との関連が見いだされた。また、咀嚼能力は赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット値と関連し、咀嚼能力と貧血の間に関連があることが見いだされた。これらのことから高齢者における咀嚼能力の低下は、唾液分泌量の低下と密接に関連しており、さらには全身的健康状態にも影響を与えていると考えられた。咀嚼機能の改善が高齢者の健康につながる可能性が示唆された。</p> <p>以上のように本論文は高齢者医療の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			